

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東北大学

前期日程

科目

英語

総 括

| 試験時間   | 100分     | 難易度(昨年比) | 難化 | 昨年並 | 易化 |
|--------|----------|----------|----|-----|----|
| 満点(配点) | 400~700点 | 分 量(昨年比) | 増加 | 昨年並 | 減少 |

## <総 論>

大問構成は例年ほとんど変わらない。読解問題は読み応えのある文章だったが、昨年より語数が減り、解答の根拠となる該当箇所がはっきりしていたため全体的に解きやすい問題が多く、難易度は昨年並みと言える。ただし記述量が多く解答に時間がかかった受験生が多かっただろう。読解問題においては下線部和訳問題は昨年の2題から1題となった。下線部の記述説明問題はここ数年6題(2022年)→4題(2023年)→2題(2024年)と減少傾向にあり、2025年も2題だったが、2026年は4題と増加した。第Ⅰ問・第Ⅱ問がオーソドックスな読解問題で、第Ⅲ問が自由英作文を伴う会話問題、第Ⅳ問が和文英訳というラインナップは、2014年以来固定している。

## <特記事項・トピックス>

- 読解問題の語数は約2,230語で、昨年の約2,450語からは減っているが、2024年度が2,040語、2023年度が約2,290語であり、東北大学の平均的な語数の範囲内と言える。
- 昨年までとは異なり、読解問題で内容一致問題は出題されなかった。
- 第Ⅰ問で、昨年同様、英文法の正誤判定問題（文法的な誤りを含む箇所を選ばせるもの）が出題された。昨年同様、誤りの訂正箇所が2つ。
- 第Ⅰ問の小問が8問（昨年は6問）と例年に比べて多かった。
- 昨年までとは異なり、読解問題における文補充問題は出題されなかった。
- 昨年までとは異なり、読解問題における語句整序問題が第Ⅰ問・第Ⅱ問両方で出題された。
- 記述問題の解答欄は昨年同様、「2つ挙げよ」という問題が「①・②」と別々の解答欄が設けられていた。
- 読解問題の客観式は、意味選択、語義選択、空所補充など多様な出題となった。
- 第Ⅲ問の会話文の英問英答問題に含まれる自由英作文は、昨年の自由に意見を述べる問題とやや異なり、対話に登場する2人の人物のうち、どちらの意見に賛成かを解答させる問題であった。また昨年同様に語数指定があり、昨年同様「60語から80語」とより厳密な語数の指定であった。客観式の問題も昨年同様に下線部語義選択だった。
- 第Ⅳ問は、昨年同様で、和文英訳1題と日本文に対応する語句整序が2題出題された。

## <合格への学習対策>

いかなる設問にも対応できるようにバランスよくスキルアップを目指すことが重要である。読解では一文の構造のみならず、文と文の関係にも注目しつつ文章全体を把握する訓練もしておくこと。英作文では、和文英訳を通して「書くための」英語をひとつでも多く身につけ、基本文法をしっかりと定着させること。

## 設問ごとの分析

| 問題番号 | 出題形式  | 分野・テーマ(表題)                      | 特徴(内容分析・解答上のポイント)                                                                                                                                                                 | 問題レベル                                             |
|------|-------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| I    | 客観・記述 | 「拡大する教育と広がる教育格差」                | 空所を除き約910語（昨年は約1,260語）<br>問1 文法正誤問題（客観）：文法的に間違っている箇所を指摘させる<br>問2 下線部説明（客観）<br>問3 空所補充（客観）：語句補充<br>問4 下線部和訳（記述）<br>問5 下線部説明（記述）<br>問6 空所補充（客観）：語句補充<br>問7 下線部説明（記述）<br>問8 語句整序（客観） | 標準<br><br>標準<br>標準<br>やや難<br>標準<br>標準<br>標準<br>標準 |
| II   | 客観・記述 | 「脳の予測を脱した、過去にとらわれない主体的な生き方のすすめ」 | 空所を除き約1,320語（昨年は空所を除き約1,190語）<br>問1 下線部説明（記述）<br>問2 下線部説明（記述）                                                                                                                     | 標準<br>標準                                          |

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

|   |       |               |                                                                                                                                                                    |                      |
|---|-------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
|   |       |               | 問3 語句整序（客観）<br>問4 下線部意味選択（客観）：当てはまらないものを選ぶ<br>問5 下線部語義選択（客観）：本文から類推する問題<br>問6 下線部語義選択（客観）                                                                          | 標準<br>標準<br>標準<br>標準 |
| Ⅲ | 客観・記述 | 「教授と学生の間での会話」 | 問1 下線部語義選択（客観）<br>問2 自由英作文：「紙の本と電子媒体」というテーマについて、賛成する人物を挙げその理由を述べさせる自由英作文                                                                                           | 標準<br>やや難            |
| Ⅳ | 客観・記述 | 「社会調査へのアプローチ」 | 問1 和文英訳（1題）：日本語の文章を正しく理解して正しい英語の構文にする力が問われる問題（難解な日本語を英語で表現させていた例年の問題と比べ典型的な構文や表現が問われた）<br>問2 語句整序：日本文に相当する英文を語句を並べ替えて完成させる問題<br>問3 語句整序：日本文に相当する英文を語句を並べ替えて完成させる問題 | 標準<br>標準<br>標準       |

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

### 出典・資料

I Paul Attewell and Katherine S. Newman, *Growing Gaps: Educational Inequality Around the World*  
 II Scott Barry Kaufman, "How to Stop Being a Victim of Your Past." *Psychology Today*, March 4, 2025  
 IV 大谷信介他『新・社会調査へのアプローチー論理と方法ー』